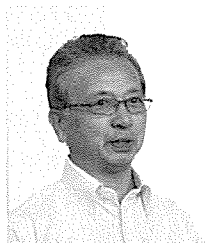


NEWS

安全衛生研修会 労働災害事例と熱中症予防

安全衛生委員会(加山昌弘委員長)5月31日(水)午後2時から名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)において「安全衛生研修会」を86名参加のもと開催されました。



中部安全衛生サービスセンター 竹平氏

研修会は加山委員長の開会の挨拶で始まり、講演会は「産業廃棄物処理業における労働災害事例と熱中症予防について」と題して、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター 専門役・安全管理士・衛生管理士 竹平英敏氏を講師としてお招きいたしました。

研修では産業廃棄物処理業の労働災害による死亡者数が、平成21年1,111人～平成28年1,320人と数値が上がっているため、なぜ増加傾向にあるのか、発生状況と災害事例を挙げた解説がありました。

その後、熱中症に重点を置き説明がありました。発生時期は6月後半から8月あたりまでが多発傾向にあり、梅雨明け前から発生し、7月下旬が最大となります。時間帯では11時台、14～16時台がピーク(全体の約5割)となっており、業種としては、建設業と製造業での発生が全体の5割を占め、年齢は高齢者が全体の5割となっています。

◆熱中症が発生しやすい条件

<ul style="list-style-type: none"> ・環境条件 高温、多湿、風が弱い 発熱体がある(高温物体、日差し) 汗が蒸発(汗だけが出る)しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業条件 初日に作業の負荷が大きい 連続作業(休みが取れない) 通気性や透湿性の悪い作業服等
<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態→個々の作業者の健康状態等も大きく影響体調の悪い人、風邪で発熱がある、下痢で脱水状態にある人、高齢者、肥満の人、運動不足の人、暑さに慣れていない人、糖尿病、高血圧、腎不全、広範囲の皮膚疾患、精神神経疾患の薬の服用 	

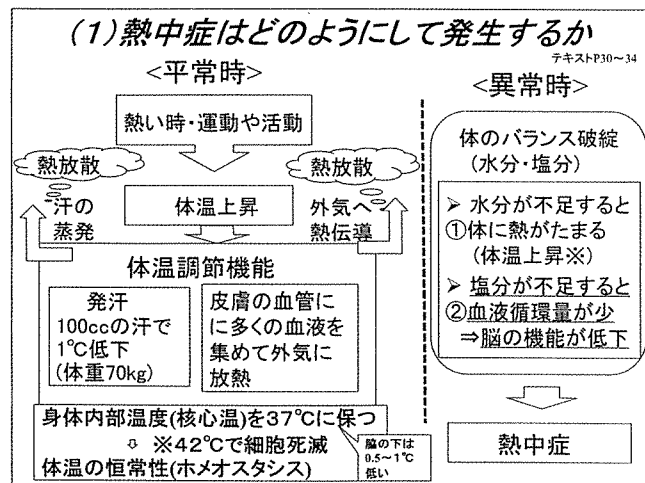
◆熱中症の症状を分類

分類	症状
I度	めまい、失神、筋肉痛、筋肉の硬直、大量の汗
II度	頭痛、気分の不快、嘔吐、倦怠感、虚脱感
III度	意識障害、痙攣、手足の運動障害、高体温

熱中症予防対策

- ・自覚症状の有無に関わらず、水、塩分の摂取の徹底指導!
- ・作業前後の、作業中の定期的、摂取確認表の作成
- ・巡視による確認⇒摂取の徹底を図る
食塩水0.1～0.2% (1ℓ水1～2g食塩)
スポーツドリンク
20～30分ごと、カップ1～2杯程度
- ・服装は透湿性、通気性の良い服装、冷却服
- ・作業中の巡視(頻繁に行う)
- ・水分、塩分の摂取確認 ⇒ 作業の中断等必要な措置
- ・お互いに健康状態の確認

緊急時の備えとして、①緊急搬送先②緊急連絡網の作成及び周知③救急処置用品、等のアドバイスをいただき研修会は終了しました。



※中部安全衛生サービスセンター・配布資料より引用